

学校評価シート

<p>東海市立加木屋小学校</p> <p>住所 東海市加木屋町編笠9番地 電話番号 0562-32-2207 児童 689名 校長名 新美 勲 29学級 (内 特支7)</p>		<p>校訓「元気で 仲よく 真剣に」</p> <p>○ 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心もからだも たくましい子 ・思いやりの心をもち、礼儀正しい子 ・よく考え、自ら学ぶ子 <p>○ 地域の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事が盛んで、学校と地域コミュニティ、保護者の連携が図られている。
---	--	---

中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和8年2月12日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
<p>真剣に</p> <p>よく考え、自ら学ぶ子</p> <p>・意欲をもって学習に取り組み、ともに高め合い、確かな学力を身に付ける子の育成</p>	基礎基本の定着	<p>・アンケート</p> <p>児童 2 授業は楽しく、よく分かる 教職員 2 よく分かる授業を実践している 保護者 2 先生は分かりやすい授業をしている</p>	<p>「授業が楽しく、よく分かる」と90%を超える児童が回答し、昨年度より数値が増加している。また、保護者全体では「教員は分かりやすい授業をしている」と感じている数値が85%を越える結果となっており、「よくあてはまる」は3%上昇している。学力調査の結果の分析結果や授業の振り返りを基にした授業改善を続け、児童にとって満足感・成就感のある授業を継続していきたい。</p>	<p>児童の主体的な学習の実現に向け、授業研究・教材研究に取り組み、引き続き、楽しく分かりやすい授業を目指す。また、ICT機器の活用における利点を生かした授業づくりを進める。振り返りによる児童自身の学びの自覚や、協働的な学習が進められるように授業の質的向上に努める。今後も、基礎基本の定着のために、家庭での学習と連動しながら学習習慣を確立させる。</p>	<p>児童・教職員の回答は昨年度から改善しており、授業改善に向けた教職員の継続的な努力が児童の実感として表れている。保護者の評価も高い水準であり、理解も得られていると受け止めることができる。しかし、昨年度から微減していることを考えると、学校の取組をよりわかりやすく伝えられる方法を模索していく必要も感じられる。今後も紙媒体とタブレット端末を併用した授業、子どもたちの思考させる活動を取り入れた、時代に即した分かりやすい授業を継続してほしい。</p>	<p>算数科の少人数授業やT.Tを継続し、苦手意識をもつ子どもたちへの細やかな声かけや個々の学びに向けた適切な指導を心がける。教員の専門性を生かした教科担任制による質の高い授業を推進していく。子どもたちに分かる・できる・楽しいを実感させるような授業づくりのためにも、現職主任と教務主任とが連携し、さらなる授業改善をすすめるとともに、家庭と連携を図りながら基礎基本の定着を進める具体策を考え実践する。</p>
	意欲的な学習への取組	<p>・アンケート</p> <p>児童 3 授業では、進んで学習に取り組んでいる 教職員 3 児童は意欲的に学習に取り組んでいる</p>	<p>1学期に「あてはまる」と回答した教職員は91.2%であったが、2学期は96.5%と上昇した。しかし、児童は85%から83.9%となった。昨年度は、86.6%であり、わずかではあるが低下している。高い数値ではあるものの、子どもたちに自らの取組をよりよく受け止められるよう感じさせたい。</p>	<p>自ら課題を設定し、児童主体の学習を進め、自分の考えをもち、友達と互いに高め合えるような授業づくりを推進していく。学びの自覚を進めるためのICT機器やタブレットの活用方法を工夫する。校内研修を設定したり、先進校の授業公開へも積極的に参加し、更なる授業力向上を図る。</p>	<p>児童は集中して楽しそうに授業に参加している。児童の発言は、元気よく活気がある。しかし16%の児童が否定的な回答しており、昨年度よりも悪化していること、そして教職員の3.4%の否定的な回答もある。それぞれの立場での課題を抽出し、改善を図っていく必要がある。</p>	<p>担任が授業の振り返りから、子どもたち一人一人の学びを見取り、子ども自身が達成感や自己有用感を味わうことができるようにする。個々に応じた具体的な支援に目を向け、子どもたちが主体的に学習を進めることができる環境を整える。</p>
<p>仲よく</p> <p>思いやりの心をもち、礼儀正しい子</p> <p>・いじめを許さない子の育成</p> <p>・相手のことを考え行動できる子の育成</p>	いじめのない学校づくり	<p>・アンケート</p> <p>児童 5 どの友達にも思いやりのある言動をとっている 教職員 5 いじめのない集団づくりをしている 保護者 4 思いやりの気持ちの大切さを伝えている</p>	<p>「あてはまる」と回答した児童は、昨年度の92.4%から91.8%となったが、高い数値を維持している。98%の保護者が家庭では思いやりの大切さを伝えているという結果であった。「あまりあてはまらない」と回答した教職員が1名いたことに衝撃を受けた。</p>	<p>いじめ撲滅に向け、アンケートや教育相談はもちろんのこと、日頃の声かけを充実させ、未然防止と早期発見につなげていく。特に、教職員に対して精一杯努力を続けるよう働きかける。</p>	<p>この項目は、より肯定的な回答となるように努めるべきである。教職員の否定的な回答について、その要因を把握し学校全体が一丸となったいじめの未然防止に取り組みが求められる。日頃からの声かけや教育相談など、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、相談しやすい関係づくりを継続してほしい。</p>	<p>いじめは決して許さないという強い姿勢で全教職員が臨む。道徳の授業や、教育相談、毎日の声かけ等を通して子どもの少しの変化も見逃さない教職員集団づくりを進める。子どもたちとのコミュニケーションを密に行い、いじめの早期発見につなげる。保護者に対して、学校だよりやブログを通じて学校の取組を共有する。</p>
	思いやりの醸成 —ペア活動—	<p>・アンケート</p> <p>児童 6 ペアのことを考え行動し、協力して過ごした 教職員 6 ペア活動を通して児童が身に付ける力を理解し指導している 保護者 5 ペア活動を楽しみ、思いやりの気持ちを育むことができる</p>	<p>「あてはまる」と回答した児童は88%、教職員は86.2%、保護者は78.6%であった。今年度から、チャレンジ活動からペア活動へ移行を行った。1学期と比較すると、保護者が90.4%から11.8%下がった。子どもたちの満足度がそれほど変わらないことと比べると大きな差がある。</p>	<p>今年度から新たに加わった項目である。ペア活動を通して身につけたい力を教職員が理解する。その上で、児童の主体性を育む活動づくりを支援する。児童が自分たちで作りに上げてきた活動であることを実感することができる、家庭での姿にも変容がみられると考える。ペア活動の様子を周知することともに、子どもたち自身の記録等を保護者と共有する。めざす姿を明確にし、教職員の共通理解を基にした支援を進める。</p>	<p>ペア活動を通して児童の主体性を育むことはよい取組である。他学年の児童とのふは、互いの学びも大きいと思う。ねらいを教職員で共有し、活動への意欲付けや支援を行ってほしい。また、児童自身が目標を理解し活動を考えることは、効果を高めることにつながるのではないだろうか。さらに、その目標を保護者と共有し、理解を図るためにも活動の記録を発信しながら、よりよい活動としていくことが期待される。</p>	<p>教職員がペア活動のねらいを理解し、その効果を実感する必要がある。今年度は学級委員がペアの子に楽しんでほしいと企画をした学年があった。具体的な取組を学校全体で共有しながら、委員会等でペア活動企画を進めていく。高学年では子どもたちの思いや考えの実現に向けて教職員は支援し、達成感や自己有用感の醸成する。低学年はペアとの関わりを通して、相手の気持ちを考えた言動等を学ぶ機会としていく。また、子どもたちの声や姿を保護者に向けて発信していく。</p>
<p>元気で</p> <p>心もからだもたくましい子</p> <p>・規則正しく過ごし、挨拶をすることができる子の育成</p> <p>・自他の命を大切にし、自ら安全な生活を営むことができる子</p>	規則正しい生活習慣	<p>・アンケート</p> <p>児童 1 規則正しい生活をしている 教職員 1 規則正しい生活を指導している 保護者 1 規則正しい生活を身に付くように心がけている 地域 1 元気よくあいさつすることができる</p>	<p>児童の「よくあてはまる」の割合が昨年度を下回ったが、保護者は10%増加しており、乖離が見られる。「あてはまる」の回答について、教師は86.2%、保護者は96.2%、児童は85%となっており、家庭での声かけが児童の行動には結びついていない。地域における挨拶については100%「あてはまる」と評価されており、家庭との連携と指導の成果がみられる。</p>	<p>にこにこチェックや保健だより等による啓発や指導資料の活用をして取り組んできた。教職員が常に問題意識をもち、定型化することなく、日常の粘り強い声かけ・指導を徹底していくことが大切である。また、学校保健委員会では適切な課題を設定し、よりよい生活を送ることができるように指導をしていく。</p>	<p>児童が規則正しい生活習慣を身につけるためには、保護者による家庭での声かけによるところが大きいと思われる。家庭環境の影響が大きい項目だが、子どもの健やかな成長については学校からの働きかけも必要不可欠である。今までも加木屋小学校の子どもたちは、元気よくあいさつができており、数値的な改善もみられているので、にこにこチェック等の試みとともに、今後も丁寧な声かけと啓発活動を継続してほしい。</p>	<p>規則正しい生活の定着を図るため、養護教諭との連携を深め、担任や児童に関わる複数の教員から働きかけができるようにする。にこにこチェックは、生活・健康に関わる児童の意識の向上のため継続して行う。挨拶については、教職員が自ら率先垂範し、子どもたちのよき手本となることともに、子どもたちが自然に挨拶をする習慣づくりを目指す。生活委員会の挨拶に関わる取組を継続する。</p>
	命を大切にし、安全に生活できる子の育成	<p>・アンケート</p> <p>児童 7 安全に気を付けて生活している 教職員 8 安全に生活しようとする子を育成している 保護者 7 学校は安全に生活できるよう配慮している 地域 2 安心安全に配慮した取組みができている</p>	<p>児童、教職員、地域とも、「あてはまる」の割合が90%に近い水準を維持している。しかし、保護者の数値86.3%となっており家庭での捉えが悪いことが分かる。坂の多い地域であることや校区内の環境も大きく変化しており、結果に甘んじるものがないようにしたい。登下校中のけがの数もやや目立つことから、「自分の命は自分で守る」という安全に対する意識が低下することのないよう取り組む必要がある。</p>	<p>家庭・地域と連携を図り、不審者、地震など多様な課題に取り組む。校内では、登下校も含め、怪我や事故に対しての危機意識を高め、安全に生活できるように働きかける。また、KYT(危険予知トレーニング)の取組を更に充実させ、趣旨を理解させるとともにできていることを認めていくなど、児童の安全意識を高めていく。</p>	<p>避難訓練等を適時適切に実施し、防災教育に取り組んでいる。引き続き学校生活の中で起こりうる危険行動について未然防止できるように取り組んでほしい。交通安全、特に登下校については保護者の声かけが大切である。KYT登校の目的や意義について保護者へのさらなる理解を図るとともに、登下校における具体的な怪我等の事例を示し、家庭で子どもと話すきっかけを提供していくことに取り組んでほしい。</p>	<p>児童一人一人の安全意識向上を図るために、危険回避を自分で考え行動することが重要である。学校生活や登校時のKYTを継続し、家庭で安全意識の向上を目指した話ができるように話題を提供していく。不審者や自然災害などの多様な状況に対応できるように取組を充実させ、有事の際に自分で行動できる児童を育成する。</p>
<p>地域連携</p> <p>信頼される学校づくり</p>	持続可能な活動 学校肥大化に向けた取組み	<p>・アンケート</p> <p>教職員 9 家庭訪問が地域巡回に変ったことは適切だと思う 保護者 8 家庭訪問が地域巡回に変ったことは適切だと思う 教師 11 PTA活動の見直し等に取り組んでいる 保護者 10 PTA活動は無理のない取組になってきている</p>	<p>家庭訪問が地域巡回に変った点について「あてはまる」の割合が教職員、保護者どちらも90%を超えている。PTA活動については、「あてはまる」の回答が教職員は95%以上に対して、保護者は74%となっている。「わからない」の回答が保護者は12.9%と高い数値となっているため、組織や活動の内容をよりわかりやすく伝えていく必要がある。</p>	<p>社会生活の変容とともに保護者の働き方も変化しており、これまで通りを継承していくことは難しい。学校規模も大きくなること、保護者のニーズも多様になると考えられる。そのため、行事等のあり方やPTA活動等について、持続可能な内容や方法へと改善していかなければならない。変更をする際は、広く情報共有を図りながら丁寧に進めていく。</p>	<p>社会や地域、家庭状況の変化、個人の考え方も多様になった。これらに対応するためにPTAや家庭訪問等についての見直しは必要である。学校と家庭、地域とともに手を取り合い、これからの社会を担う子どもたちを共に育む気持ちを大切にするためにPTAは必要なものと考えられる。学校の肥大化が進んでいくが、持続可能なあり方を目指した改善、家庭や地域、学校との丁寧な情報共有を継続してほしい。</p>	<p>社会の変容に合わせた教育活動のあり方について改善を図っていく。PTAについて、個人情報保護観点からも入会者の意思確認を行っていく。家庭と学校が協力し合ってこそ、健全な児童の育成を目指すことができることを伝え続けながら、保護者の協力を仰いでいく。また学校の肥大化については、見通しをもちながら計画的に持続可能な取組を推進していく。</p>
	地域との連携	<p>・アンケート</p> <p>教職員 10 必要な情報を伝えている 保護者 9 適切に情報提供している 地域 3 適切に情報提供している 保護者 14 駐車場について考えることを記入する 地域 4</p>	<p>保護者、地域ともに「あてはまる」の割合が90%を超えている。しかし、教職員の数値が86.2%となっており、必要な情報が伝えられていないと考えていることが分かる。校内に駐車場がないことについては、保護者からはさまざまな考えが出されているが、子どもが歩いている距離であることから不要と考えている家庭も一定数あることが分かった。地域との連携について細やかな情報を発信するなど取組を更に充実させたい。</p>	<p>学校支援協議会を軸に、行事や総合的な学習の時間などにおいて、ボランティアの方との関わりを活性化し、地域の教育力を学校教育に生かすことができるように地域へ情報発信していく。地域コミュニティとの連携をもっと深め、地域と協働する学校づくりを進める。駐車場については、地域からの知恵をいただきながら考えていく。</p>	<p>ボランティアとして地域の力を学校教育に生かす取組が評価できる。学校と家庭、地域の連携が活性化するよう今後も取組を継続してほしい。子どもたちの登下校の安全については、地域と協働できると考える。また、駐車場については、学校は丁寧に対応していることが分かる。子どもが歩いているため保護者も歩くことのできるような家庭も多い。ルールを伝え、守ることのできない保護者については毅然とした対応をとることも必要ではないか。</p>	<p>学校の環境整備や子どもたちの学習について多くのボランティアの方々に助けていただいている。感謝の気持ちを伝える会を実施し、子どもたちにも地域の方とのつながりを捉えさせたい。校長、教頭が中心となりコミュニティと連携し、情報発信を継続するとともに、地域の方を学校の活動に引き込んでいくことができるような工夫を考える。駐車場については、毅然とした対応をとり、ルールを守っている保護者が気持ちよく行事に参加できるようにしていく。</p>